

「授業作りに関するアンケート調査」 の報告会 第4回FDフォーラム開催

大学教育研究センター・FD実施支援対策検討部会が主催する第4回FDフォーラムが去る12月5日午後開催された。年末の大変慌ただし中、山下興亜副学長はじめ約80人の参加を得た。このように多数の方々の参加が得られたことに教員の授業作りに対する並々ならぬ熱意が感じられた。

今回はタイトルのとおり、昨年実施した「授業作りに関するアンケート結果の報告」を中心に参加者との意見交換を行った。

「授業作りに関するアンケート調査」は講義担当常

勤教員 185 人を対象に実施、昨年 1 月に配付し 3 月末に締め切った。その結果 104 人の方々 (56.2%) より貴重な意見や熱心な回答が寄せられた。5 月以降 FD 実施支援対策検討部会で分担して回答内容を分析した。内容の記述・表現方法について何度も検討を重ね、ようやく報告書を作成し当日配付することができた。

アンケートの内容はネット上で既に公開されているが、配信ご希望の方は大学教育研究センターまでお問い合わせ願いたい。

フォーラムでは坪井和男大学教育研究センター長の開会あいさつの後、「アンケートの実施からまとめまでの全体報告」を小野が行い、「授業計画シラバスの作成とその効果」は大門正幸助教授(英語英米文化学科)の司会によって報告し、「ホームページによるシラバスの公開事例」について小栗成子講師(語学センター)が発表した。さらに「授業運営」について授業を進める上で心がけていること、技術的なことで工夫していることなど、その内容について河内信幸教授(国際文化学科)が報告した。最後に「成績評価」について、絶対評価か総合評価か、または相対評価との違いを分析して数値で示すなどしながら後藤英雄助教授(電気工学科)が報告した。



フォーラム会場風景

各セッションでも活発な質疑と応答、意見交換があり盛会のうちに終了したものの、内容について十分議論できる時間が取れなかったことは少し残念である。最後の三浦真琴大学教育研究センター副センター長の閉会のあいさつにあったように、FD活動は中部大学においては緒に付いたばかりであり、まだまだ道のりは遠いと思われる。その過程で「学生と教

員が同じ土俵で切磋琢磨できるか」が中部大学の今後の発展にも大きく関わってくると考えられるだけに、当フォーラムが今後の活動の出発点となるよう希望する次第である。

(大学教授・FD実施支援対策検討部会長 小野博宣)